

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600479		
法人名	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会		
事業所名	厚真町高齢者グループホームやわらぎ		
所在地	〒059-1605勇払郡厚真町本郷2 3 6番地の6 (電 話) 0145-26-7336		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】 (平成 21年 8月 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 13年 1月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.1 歳	最低 82 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あつまクリニック、厚真歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

厚真町役場から、車で約3分の場所に位置しており、デイサービスセンターと高齢者生活支援ハウスを併設している。防災体制については、普段から地域住民と連携を取りながら火災時に対する訓練をしている。また、利用者本位のケアに努めており、職員一丸となって「利用者が少しでも満足できる生活、安心した生活」が提供できるよう、支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	事業主体の厚真町と連携を取り、運営推進会議を今年4月に立ち上げている。また、月2回の職員会議で介護計画の見直しを職員全員で協議し、柔軟に対応をさせる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	事業者と職員の間で信頼関係を築いており、全員で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	今年4月に運営推進会議を立ち上げ、規約も整備し、今後は2ヶ月に1回の開催を目指している。家族会、自治会、地域包括センター、ボランティア、民生委員の各団体から代表者が出席し、事業所運営について話し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	事業所の年間行事、お知らせ等は「社協便り」に掲載している。また、家族への利用者の状況報告は、DVDに利用者の日々の様子を収録し、来訪時に見ることができるようにしており、さらには、希望によりコピーを渡している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにある特別養護老人ホームと交流したり、地域の祭りを見に行くなど、地域との関わりを大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所内に運営理念を掲示しているが、地域密着型サービスとしての独自性を示したものはなっていない。	○	現状に即した、事業所独自の理念をつくりあげてを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	記名章が入っているケースの裏に理念を印刷した用紙を挟み、さらには、会議等において話し合うなど、職員間で理念の共有化を図り、実践に向け日々取り組まれている。。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する高校の実践授業や地域のボランティアを受け入れている。また、町内文化祭への出展や近くの特別養護老人ホームへの訪問など、地域と関わりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全員で取り組んでいるが、評価で見出された課題について具体的な取り組みとして結びつくまでには至っていない。	○	全職員で評価を計画的、継続的な取り組みに活用するためにも、評価改善計画シートを作成するなど、具体的な取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年4月に運営推進会議を立ち上げ、家族会、自治会、地域包括センター職員、民生委員、ボランティアの代表で組織し、規約も整備している。今後は2ヶ月に1回の開催を目指している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町からの受託事業なので、運営に関しては町担当者と連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設以来、家族からの苦情は無い。厚真町社会福祉協議会発行の「社協便り」に、年間計画、行事を掲載し、全町民に知らせている。利用者の状況は、DVDにして利用者の状況を収録し、家族に配布し利用者の状況をよりわかりやすい形で伝えるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、行事に気軽に参加してもらおう場をつくるよう努めている。また、様々な機会を利用して家族の意見をできるだけ引き出すように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する場合には、事前に利用者と親しみやすい関係づくりをするよう心がけ、利用者へのダメージを防ぐ配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で毎年全職員を対象に、外部から講師を招き内部研修を行っている。今年は11月に2回、記録のとり方についての研修を開催する計画をしている。	○	職員の認知症に関するスキルアップのため、認知症に関する、外部研修への参加の機会を増すことも望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と研修会や交流を通して、サービスの質の向上を目指している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまでの支援は町が行っているため、評価は困難である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症が進む利用者が何を望んでいるか、思いを汲むように努めている。茶碗を拭くなど、できることはなるべく利用者本人にしてもらい、互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で気付いたことは、記録に残している。それを介護計画の作成に活かし、本人の思いに沿うように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、本人や家族の要望や意見を聴き、1ヶ月に2回の職員会議で意見交換し、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に2回職員会議を開催しており、問題を提起し全員で話し合っている。本人本位の介護計画を作成し、本人に変化がある時には臨機応変に対応するなど、家族や本人の要望を取り入れながら見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの利用者と園芸作業や散歩を一緒にしたり、それぞれ作ったおやつを差し入れるなど、多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に、定期的に受診しており、冬季間は町内の協力医療機関の往診がある。緊急時の受診については、職員も同行する支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向に沿って対応する体制ができています。冬季間は町内の協力医療機関の往診もあり、緊急時の体制も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は尊敬の念を持って、利用者に言葉かけをしている。プライバシーの確保については、重要事項説明書に事業所の個人情報に関する考え方を明記するなど、具体的な取り組みまでには至っていない。	○	利用契約締結時、本人、家族から「個人情報取り扱いに係る同意書」を得る事が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にその人らしいペースで、その時の本人の希望を尊重するなど、個別支援の充実に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食事を摂り、和やかな雰囲気である。後片付けに際しては、利用者が皿拭きなどの片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望に応えるため、24時間入浴できる様になっているが、経費の面から普段は午後からの入浴体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごと、気晴らしの支援として、例年ドライブを実施している。さらに、町が主催する「田舎まつり」を見に行ったり、近くの公園で焼肉をするなど楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化とともに、買い物、食事に行くことができる人が少なくなっているが、そのような中でもできるだけ希望に沿うように、事業所のベランダで、焼肉するなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しており、夜間は防犯上施錠している。裏口も防犯上施錠しており、火災時は消防通報のボタンを押すと、自動的に玄関、裏玄関の施錠が解除されるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自治会にも火災訓練参加してもらい、6月に開催している。火災時は屋外に設置したスピーカーから火災発生の声が流れ、自治会住民など近隣に協力を呼びかける独自のシステムを構築している。次回訓練は11月に実施する予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの、毎日の食事、水分摂取量が記録されており、職員が情報を共有できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは、天井が吹き抜けで、3ヶ所の天窓からは快い陽が差し込み、爽やかな雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫婦で利用できる部屋もあり、それぞれの利用者の部屋には、仏壇、写真や普段愛用していたものがあり、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。